

● Photo sketch ●



10/23 車いすランナーに学ぼう
前向きな生き様

土岐市生まれでパラリンピック車いす陸上金メダリストの田中照代さん（写真左）が泉中学校で講演し、同校の生徒約460人が熱心に耳を傾けました。

田中さんは、生徒らに競技を始めたきっかけや、悔しさをバネにして目標を持って進むことの大切さを語り掛けました。

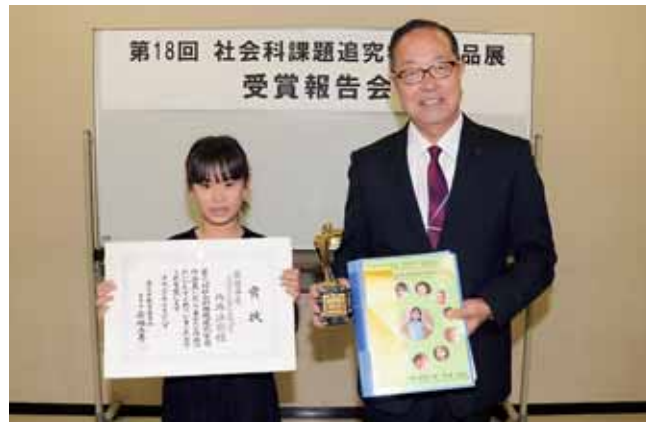
競技用の車いすに試乗した生徒は、「重たくて前に進むことは大変だった。田中さんの前向きに生きる姿が印象に残った。自分も辛いことがあっても諦めないようにしたい」と力強く話してくれました。



10/30 国体で入賞！ 喜びを語る

9～10月にかけて福井県で開催された国民体育大会、全国障害者スポーツ大会で好成績を取めた選手ら5人が、入賞の喜びを市長に報告しました。

昨年の同大会馬術少年二段階障害飛越の優勝者である小栗麻莉乃さん（写真左）は、少年ダービー競技に初出場し見事に優勝。「コースが長く、特殊な障害がある種目で自信はなかったけど、優勝できてうれし」と満面の笑みで喜びを語ってくれました。



11/2 2年連続“最優秀賞”受賞の快挙

県教育委員会主催の第18回社会科課題追究学習作品展で、2年連続「最優秀賞」を受賞した土岐津小4年生の内海沙彩さんが、教育長らに喜びを報告しました。

内海さんは市のごみ袋の値上げに疑問を抱き、市の職員や地域住民など11人に取材。「値上げには処理費用だけでなく、ごみの量を減らしたい」という願いがあることに気付きました。研究成果は120ページにわたりまとめられ「来年も研究テーマを見つけて頑張りたい」と抱負も語ってくれました。



11/5 みんな元気でいよまあか

住民が主体となって近所に声を掛け合い、歩いて通える集会場で行う介護予防教室「地域はつらつ元気塾」が、初の試みとして駄知町雨池地区で行われました。

講師は、笑うことは心と体の健康の源と伝え、ユーモアたっぷりに指導。参加者は「大笑いをして楽しかった。心も体も元気になれた」と生き生きとした表情で話してくれました。

皆さんの地区でも同教室を開催し、いつまでも元気で過ごせる町づくりをしませんか。問い合わせは、市地域包括支援センター（内線159）まで。



11/3～4 全国に発信しよう
地域で盛り上げるお祭り

今年で22回目となる「下石どえらあええ陶器まつり」が2日間にわたり開催され、県内外から訪れた多くの家族連れなどでにぎわいました。

煙突のある町並みをのんびり散策する窯元めぐりや、もろ板（運搬用の板）に窯元自慢の製品や新作を並べた窯元もろ板陶器市、陶工の雰囲気を楽しむもろ板担ぎ体験、家族で楽しめる絵付け体験など、各ブースがお祭りを盛り上げました。

来場者は、「若手作家の作品を楽しみに毎年来ている」「窯元それぞれに特徴があって面白い」などと話し、深まる秋の行楽を満喫していました。



11/10～18 明かりの共演 幻想的な世界

今回で17回目となる「穴弘法もみじと100地蔵のライトアップ」が、11月10日～18日の9日間にわたり土岐津町高山の穴弘法で行われました。

LEDで照らされ池に映し出される色付いた紅葉や、ゆらめくロウソクの炎に照らされる104体の石仏、地元の園児や児童、土岐里山の会のメンバーなどが作った竹の灯籠「竹あかり」が幻想的な世界を演出。

訪れた人々は「紅葉や竹あかりの美しさに感動した」と称賛し、親子でうっとり眺めたり、スマートフォンやカメラで撮影を楽しんだりしていました。

